

令和3年度 学校図書館評価シート

足立区立花保小学校 校長 半田英雄

1 学校図書館の現状（今年度末）

蔵書状況	① 蔵書数 111,71冊（蔵書基準冊数 10,360冊）／蔵書率 107%（前年度 101%）									
	② 新規購入図書 495冊／廃棄図書 500冊／増減冊数 -5冊									
分類	総記0類	哲学1類	歴史2類	社会3類	自然4類	技術5類	産業6類	芸術7類	言語8類	文学8類
蔵書構成割合	2.2%	1.4%	6.8%	7.5%	12.0%	5.4%	3.9%	7.6%	4.4%	48.8%
*国基準	6%	3%	16%	10%	16%	6%	5%	8%	5%	25%
利活用の状況	① 開館時間：8:30～16:30（前年度からの変更 あり・なし）									
	② 児童一人あたりの年間平均貸出冊数 36.1冊（前年度：29冊）									
	③ 1か月に2冊以上読む児童 60.5%（前年度：44%）									

2 学校図書館基本計画「学校図書館の目標・ねらい」の達成状況（今年度総括）

- ① 季節の行事や学校行事に関連する図書、時事関連の図書等の配架や掲示の仕方を工夫したり、図書館おみくじ等の企画を実施したりしたことで、複数の分類の本を手にする児童が増えた。
- ② 学級担任と学校図書館支援員が連携をして、国語科で扱った教材文の著者が書いた他の図書や同一テーマの図書等を教室に置くことで、図書館に来館しなくても、教室で読書活動を行う機会が増えた。
- ③ 学級担任と学校図書館支援員が連携をして、生活科や理科、社会科、総合的な学習の内容に関連した図書を各教室に置くことで、調べ学習を行う際、インターネット検索のみに頼らずに、図書からも自分に必要な情報を得ようとする児童が増えた。

3 今年度の重点指導事項・具体的取り組み、及び成果目標の達成状況

第1学年	○易しい読み物に興味をもち、楽しんで読書をしたり、読み語りを聞いたりする態度を育てる。 ○学校図書館の利用方法を知り、きまりを守って利用する態度を育てる。	
今年度の成果目標	達成基準	
①学校図書館を利用し、本を借りて読書することができる。 ②担任や学校図書館支援員の読み語りを楽しんで聞くことができる。 ③学校図書館オリエンテーションを通して、学校図書館の利用方法を知ることができる。	①読書カードを活用し、月間一人当たり10冊を80%以上の児童が達成する。（担任や学校図書館支援員の読み語り含む。） ②各クラス月2回以上、学校図書館を利用した読書、読み語り等の授業を行う。 ③学校図書館支援員による学校図書館オリエンテーションを全学級実施する。	
目標達成状況	<p>①90%の児童が月間読書量10冊以上を達成した。</p> <p>②固定時間割に「図書」を設定したことで、週1時間必ず学校図書館を利用し、本を借りて読書をしたり、担任や学校図書館支援員の読み語りを聞いたりして、多くの本に触れることができた。</p> <p>③学校図書館支援員によるオリエンテーションを全学級実施することができ、全員が新型コロナウイルス感染症に対応した本の貸出と返却の方法を覚えることができた。</p>	
第2学年	○いろいろな読み物に興味をもち、知りたいこと、読んでみたい内容から本を選び、楽しんで読書をしたり、読み語りを聞いたりする態度を育てる。 ○学校図書館の利用方法を確実にし、きまりを守って利用する態度を育てる。	
今年度の成果目標	達成基準	
①自分の興味のある本を選んで、読書することができる。 ②担任や学校図書館支援員の読み語りを楽しんで聞くことができる。 ③学校図書館オリエンテーションを通して、学校図書館の利用方法を確かめ、きまりを守って利用することができる。	①読書カードを活用し、月間一人当たり10冊を80%以上の児童が達成する。（担任や学校図書館支援員の読み語り含む。） ②各クラス月2回以上、学校図書館を利用した読書、読み語り等の授業を行う。 ③学校図書館支援員による学校図書館オリエンテーションを全学級実施する。	
目標達成状況	<p>①92%の児童が月間読書量10冊以上を達成した。</p> <p>②固定時間割に「図書」を設定したことで、週1時間必ず学校図書館を利用して、本を借りて読書をしたり、担任や学校図書館支援員の読み語りを聞いたりして、多くの本に触れることができた。</p> <p>③学校図書館支援員によるオリエンテーションを全学級実施することができ、全員が新型コロナウイルス感染症に対応した本の貸出と返却の方法を覚えることができた。</p>	

第3学年	○いろいろな読み物に興味をもち、幅広く読書しようとする態度を育てる。 ○進んで学校図書館を利用する態度を養い、課題解決に向けて、資料や情報を集めて活用できるようにする。
今年度の成果目標	達成基準
①自分の興味のある本だけでなく、学習に関連する本についても読書することができる。 ②事典や図鑑などから情報を得て、わかったことなどをまとめることができる。 ③学校図書館オリエンテーションを通して、本のグループ分けや配置について理解する。また、課題解決に必要な本などを選んで読書することができる。	①読書カードを活用し、月間一人当たり200ページを70%以上の児童が達成する。 ②各クラス月2回以上、読書や調べ学習などの授業を学校図書館や図書館資料を活用して行う。 ③学校図書館支援員による学校図書館オリエンテーションを全学級実施する。
目標達成状況	
①61%の児童が月間読書量200ページ以上を達成した。 ②新型コロナウイルス感染症の影響もあり、授業時間に「図書」の時間を取るができなかったが、図書館支援員と連携をして、学習内容に関連した図書を教室に置き、授業中に活用できるようにした。 ③新型コロナウイルス感染症の影響もあり、オリエンテーションは実施できなかったが、中学年向けの学校図書館利用案内を作成して配付し、学校図書館の利用方法の周知を図った。	

第4学年	○いろいろな読み物に興味をもち、幅広く読書しようとする態度を育てる。 ○進んで学校図書館を利用する態度を養い、課題解決に向けて、多様な資料や情報を集めて活用できるようにする。
今年度の成果目標	達成基準
①自分の興味のある本だけでなく、学習に関連する本についても読書することができる。 ②事典や図鑑などから情報を得て、わかったことなどをまとめて説明することができる。 ③学校図書館オリエンテーションを通して、本のグループ分けやラベルの見方、配置について理解する。また、課題解決に必要な本などを選んで読書することができる。	①読書カードを活用し、月間一人当たり200ページを70%以上の児童が達成する。 ②各クラス月2回以上、読書や調べ学習などの授業を学校図書館や図書館資料を活用して行う。 ③学校図書館支援員による学校図書館オリエンテーションを全学級実施する。
目標達成状況	
①76%の児童が月間読書量200ページ以上を達成した。 ②新型コロナウイルス感染症の影響もあり、授業時間に「図書」の時間を取るができなかったが、図書館支援員と連携をして、学習内容に関連した図書を教室に置き、授業中に活用できるようにした。 ③新型コロナウイルス感染症の影響もあり、オリエンテーションは実施できなかったが、中学年向けの学校図書館利用案内を作成して配付し、学校図書館の利用方法の周知を図った。	

第5学年	○適切な読み物を選び、読書を通して自分の考えを広げようとする態度を育てる。 ○進んで学校図書館を利用する態度を養い、目的に応じて、計画的に資料や情報を集めて、適切に活用できるようにする。
今年度の成果目標	達成基準
①興味のある事柄について、適切な本や新聞などを選び、読書することができる。 ②複数の本や新聞などから情報を得て、わかったことなどをまとめて説明することができる。 ③学校図書館オリエンテーションを通して、日本十進分類法について理解する。また、請求記号を手がかりにして、目的に応じて、必要な本などを選んで読書することができる。	①読書カードを活用し、月間一人当たり300ページを70%以上の児童が達成する。 ②各クラス月1回以上、読書や調べ学習などの授業を学校図書館や図書館資料を活用して行う。調べる学習コンクールに全児童が参加する。 ③学校図書館支援員による学校図書館オリエンテーションを全学級実施する。
目標達成状況	
①36%の児童が月間読書量300ページ以上を達成した。 ②新型コロナウイルス感染症の影響もあり、授業時間に「図書」の時間を取るができなかったが、図書館支援員と連携をして、学習内容に関連した図書を教室に置き、授業中に活用できるようにした。夏季休業中の課題を「自由研究」としたことで、全児童が調べ学習に取り組むことができた。その中で、調べる学習コンクールへの参加率は56%であった。 ③新型コロナウイルス感染症の影響もあり、オリエンテーションは実施できなかったが、高学年向けの学校図書館利用案内を作成して配付し、学校図書館の利用方法の周知を図った。	

第6学年	○適切な読み物を選び、読書を通して自分の考えを広げようとする態度を育てる。 ○進んで学校図書館を利用する態度を養い、目的に応じて、計画的に資料や情報を集めて、適切に活用できるようにする。
今年度の成果目標	達成基準
①興味のある事柄について、適切な本や新聞などを選び、読書することができる。 ②複数の本や新聞などから情報を得て、わかったことなどをまとめて説明することができる。 ③学校図書館オリエンテーションを通して、日本十進分類法について理解する。また、請求記号を手がかりにして、目的に応じて、必要な本などを選んで読書することができる。	①読書カードを活用し、月間一人当たり400ページを70%以上の児童が達成する。 ②各クラス月1回以上、読書や調べ学習などの授業を学校図書館や図書館資料を活用して行う。調べる学習コンクールに全児童が参加する。 ③学校図書館支援員による学校図書館オリエンテーションを全学級実施する。
目標達成状況	
①50%の児童が月間読書量400ページ以上を達成した。 ②新型コロナウイルス感染症の影響もあり、授業時間に「図書」の時間を取ることができなかったが、図書館支援員と連携をして、学習内容に関連した図書を教室に置き、授業中に活用できるようにした。夏季休業中の課題を「自由研究」としたことで、全児童が調べ学習に取り組むことができた。その中で、調べる学習コンクールへの参加率は52%であった。 ③新型コロナウイルス感染症の影響もあり、オリエンテーションは実施できなかったが、高学年向けの学校図書館利用案内を作成して配付し、学校図書館の利用方法の周知を図った。	

4 学校図書館環境整備に関する取り組み成果・効果

【蔵書・配架等に関すること】

- ・複本を廃棄したり、準備室保管にしたりして、書架に余裕をもたせたことで、図書の表紙を向けて展示することができるようになり、児童に関心をもたせたり、手に取りやすくさせたりすることができた。
- ・準備室保管の図書の整理を行い、廃棄図書と学級文庫向けの図書に分け、活用することができた。
- ・月毎に季節の行事や学校行事、時事に関する図書を低・中・高学年向けに選書し、表紙が見えるように平台に配架した。また、廊下掲示板と学校ホームページにも掲載したことで、貸出数の増加に繋がった。

【学校図書館支援員との連携・協働】

- ・1、2年生の全学級に学校図書館オリエンテーションを行った。
- ・1、2年生の図書の時間に読み語りを行った。
- ・学習内容に関連した図書資料を収集したり、区立図書館に団体貸出を申請したりして、各学年、学級に提供した。
- ・図書委員会の児童が企画した活動への助言、支援を行った。
- ・定期的に貸出延滞者リストを作成して、担任や児童に返却を呼び掛けたことで、年度末の貸出返却率は100%を達成した。
- ・図書館支援員の勤務日は、終日図書館を開館することができ、来館者数の増加につながった。

5 学校図書館運営に関する全体評価（自己評価）

- ・児童一人あたりの年間平均貸出冊数は昨年度から7.1冊増。1か月に2冊以上読む児童の割合は昨年度から16.5%増であった。徐々に読書活動に取り組む児童が増えているように思われるが、高学年には、年間で1、2回程度しか利用していない児童もいる。新型コロナウイルス感染症の状況にもよるが、年度初めに全学年に学校図書館オリエンテーションを実施する時間や学級で図書館を利用する時間を確保できるように努める。また、読書月間や図書委員会の活動と関連させた企画を実施し、読書活動の楽しさや有効性を児童自身が実感できるようにしていく必要がある。
- ・Chromebookやタブレット端末が導入されてから、インターネット検索で情報を得ることが増えた。しかし、情報活用能力が十分に身に付いていない児童もおり、掲載内容を転写していることが多い。今一度、インターネットの情報よりも普遍性、信頼性が高い図書資料を用いて、情報活用能力の育成を図っていくことが重要であると思われる。そのためにも学校図書館の環境を学習センター、情報センターとして、機能させることができるように整備していく必要がある。
- ・司書教諭と学校図書館支援員が運営方針を共有して、読書活動を推進することができた。学校図書館内だけでなく、学校ホームページを活用して推薦図書を掲載する等、児童や保護者がいつでも、どこでも図書に関する情報を得ることができるようにすることができた。

6 学校図書館の取り組みに対する評価・要望等（外部評価）

令和3年度保護者による学校評価「おさんは毎月読書をしている。(1・2年生10冊以上、3・4年生200ページ、5年生300ページ、6年生400ページ以上)」では、肯定的評価47%、否定的評価53%、分からない2%であった。児童は、朝読書や授業等で読書活動を行っているが、児童が読書記録を記載していなかったり、記録を取っていても保護者が把握していなかったりすることがある。児童、保護者に向けて、読書記録カードの活用方法を周知していく必要がある。

7 今後の展望 ー課題や問題点への改善・対応方針を踏まえてー

- ・学年が上がるにつれて、学校図書館を利用する頻度が少なくなってきた。全教職員が学校目標を達するために学校図書館基本計画や図書館活用年間計画が立てられていることを共通理解し、司書教諭を中心に連携、協働しながら、どの児童にとっても魅力ある学校図書館を作っていく必要がある。まずは、教職員自身が本に興味関心を持ち、児童の前で読書活動や調べ学習の楽しさや有益性を伝えることができるようにしたり、読み語りやブックトーク等を積極的に行ったりすることができるようにすることが求められる。
- ・学校図書館が学習センター、情報センターとしての機能を果たすために、児童のニーズに応じた蔵書を充実させ、学校図書館支援員と連携して、パスファインダーや新聞のスクラップブックを作成する等、児童が多様な情報に触れることができる環境を整える。また、どのような資料があるかを公開し、児童が目的をもって利用できるようにする。
- ・児童に探究的な学習を行わせるときは、図書資料やインターネットの情報を活用することのメリット、デメリットを教師自身が理解した上で、児童に学習の進め方や学び方を具体的に指導できるようにする。
- ・学校での読書活動や学校図書館の利用状況等を保護者が把握することができるようにするために、学校ホームページや学校図書館だより、学校図書館前の廊下の掲示板等をさらに活用していく。